

高等学校 令和8年度（2学年用）教科 地理歴史 科目 日本史探究

教科：地理歴史 科目：日本史探究 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組～8組

教科担当者：1組：金子、2組：佐々木、3・4組：金子、5・6組：金子、7・8組：佐々木

使用教科書：（詳説 日本史 ）

教科 地理歴史 の目標：

- 【知識及び技能】 各科目の正しい知識を修得させる。
- 【思考力、判断力、表現力等】 思考力を高め、正しい判断ができる力を育て、自分の意見が表現できるようになることを目指す。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自ら主体的に学ぶことができるように工夫する。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
1 学 期	A 日本文化のあけぼの 【知識及び技能】日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目させる。 【思考力、判断力、表現力等】黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにする。	・旧石器時代、縄文時代 ・教科書、図表、プリントを使用	【知識・技能】日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 【思考・判断・表現】黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	6
	B 農耕社会の生活、古墳とヤマト政権 【知識及び技能】水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解させ、国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、多角的に考察させ、中国の歴史書の記事などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにさせる。小国の形成について考察することを通じて、古墳文化の展開とのつながりを考えさせる。	・弥生時代 ・教科書、図表、プリントを使用	【知識・技能】水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、多角的に考察し、中国の歴史書の記事などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。小国の形成について考察することを通じて、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
C 律令国家の形成 【知識及び技能】隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。	・奈良時代 ・教科書、図表、プリントを使用	【知識・技能】隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 【思考・判断・表現】天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。	○	○	○	10	

	D 貴族政治の展開 【知識及び技能】藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容から摂関政治を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにさせる。	・平安時代 ・教科書、図表、プリントを使用	【知識・技能】藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 【思考・判断・表現】奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学期	E 院政、武家政権の成立 【知識及び技能】院政、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にする。 【学びに向かう力、人間性等】鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを明確にする。	・鎌倉時代 ・教科書、図表、プリントを使用	【知識・技能】院政、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 【思考・判断・表現】幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	10
	F 武家社会の成長、近世の幕明け 【知識及び技能】政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを明確にする。	・室町時代、安土桃山時代 ・教科書、図表、プリントを使用	【知識・技能】政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。 【思考・判断・表現】地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学期	G 幕藩体制の成立と展開、動揺 【知識及び技能】アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】幕府の支配の構造や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究させる。	・江戸時代 ・教科書、図表、プリントを使用	【知識・技能】アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。 【思考・判断・表現】幕府の支配の構造や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	10
	H 開国、近代国家の成立 【知識及び技能】江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解させ、明治政府による中央集権化の諸政策と土族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察させ、諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究させる。明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究させる。	・明治時代、 ・教科書、図表、プリントを使用	【知識・技能】江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解し、明治政府による中央集権化の諸政策と土族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 【思考・判断・表現】日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1

3 学 期	I 近代国家の展開、第二次世界大戦 【知識及び技能】日清・日露戦争前後の国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目し、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解させる。戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解させる。 【思考・判断・表現】戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察させ、戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究させる。日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究させる。	・大正、昭和時代 ・教科書、図表、プリントを使用	【知識・技能】日清・日露戦争前後の国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目し、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。 【思考・判断・表現】議会在戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。	○	○	○	10	
	J 戦後の日本 【知識及び技能】第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察させる。 【学びに向かう力、人間性等】第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究させる。	・第2次世界大戦後 ・教科書、図表、プリントを使用	【知識・技能】第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 【思考・判断・表現】日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	12	
	定期考査				○	○		1
							合計	105